

## ダイワJPX日経400ファンド(米ドル投資型) 最近の運用状況と今後の見通しについて

2016年3月2日

平素は、「ダイワJPX日経400ファンド(米ドル投資型)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。  
当ファンドの最近の運用状況と今後の見通しについて、お知らせいたします。

### ◀基準価額・純資産の推移▶

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2016年2月29日現在

基準価額	10,847 円
純資産総額	23億円

### 期間別騰落率

期間	ファンド	JPX日経400	米ドル
1カ月間	-14.7 %	-9.0 %	-6.0 %
3カ月間	-23.7 %	-17.4 %	-7.5 %
6カ月間	-20.0 %	-14.9 %	-6.2 %
1年間	-18.8 %	-15.0 %	-4.7 %
3年間	-----	-----	-----
5年間	-----	-----	-----
年初来	-20.9 %	-15.7 %	-5.8 %
設定来	+9.5 %	+0.7 %	+8.6 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。為替の騰落率は、わが国の対顧客電売売相場の仲値を採用し、算出しています。

※JPX日経インデックス400は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考のため掲載しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

### ◀分配の推移▶

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (14/03)	0円
第2期 (15/03)	130円

分配金合計額 設定来: 130円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## <市場環境>

### (株式市場)

国内株式市場は年初より、中国株式市場や原油価格の下落による信用リスク不安の高まりなどを受けて、大きく下落しました。

1月下旬から2月初めにかけては、海外市場の不安定さが和らいだことや、日銀が追加緩和を行ったことなどから、国内株式市場は上昇する局面も見られました。しかしながら、その後は、業績の下方修正を行う国内企業が増加したことや、米国の利上げ観測が後退したこと、中国景気に対する不透明感の高まりを受けた市場参加者のリスク回避姿勢の強まりなどから円高米ドル安が進行し、国内株式市場は年初と比較して、大幅に下落した水準で2月末をむかえました。

### (為替市場)

為替市場では年初より、中国株式市場や原油価格の下落などからリスク回避的な動きが強まり、円高米ドル安が進行しましたが、日銀の金融政策決定会合で「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入が発表されると一時、円安米ドル高が進行しました。その後は、米国の利上げ観測の後退や、市場参加者のリスク回避姿勢の強まりなどから、再び円高米ドル安が進行しました。

## <今後の見通しおよび運用方針>

国内株式市場と為替市場はともに、しばらくは振れ幅の大きい相場展開が続く可能性があります。今後については、3月10日(現地、以下同様)にECB(欧州中央銀行)理事会、14日～15日に日銀金融政策決定会合、15日～16日にFOMC(米国連邦公開市場委員会)の開催が予定されており、日米欧が金融政策面でどのような方針・協調を示すのか注目されます。

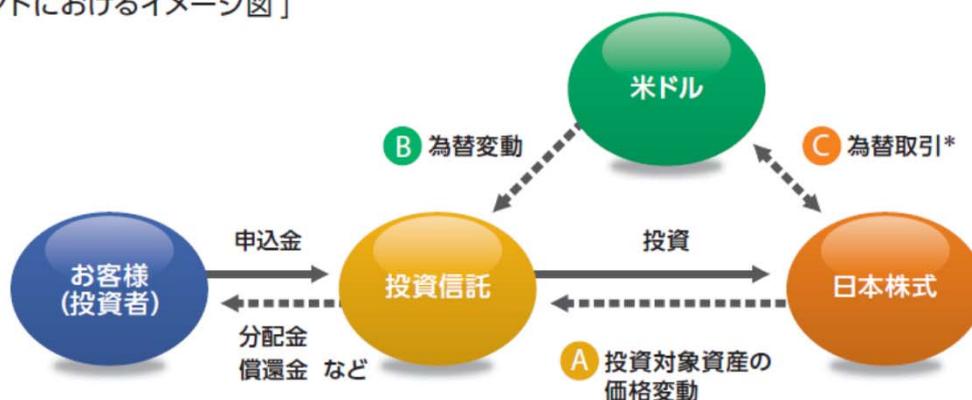
今後の運用方針については、引き続き、ダイワJPX日経400マザーファンドへの投資を通じて、JPX日経インデックス400の値動きを概ね捉えるとともに、ファンドの運用方針に則り、信託財産の純資産総額と同程度の外国為替予約取引(円売り/米ドル買い)を行うことで、米ドルへの投資効果を享受することをめざします。

以上

## 通貨選択型ファンドの収益のイメージ

◆通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。

[当ファンドにおけるイメージ図]



\*米ドルの対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

◆当ファンドの収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

	A	B	C
収益の源泉	日本株式の 値上がり/値下がり、 配当	為替差益/差損	為替取引による プレミアム/コスト (金利差相当分の収益/費用)
収益を得られる ケース	 株価の上昇、配当収入	 為替差益の発生 ・円に対して米ドル高	 プレミアム (金利差相当分の収益) の発生 米ドルの短期金利 > 日本円の短期金利
損失やコストが 発生する ケース	 株価の下落 ・発行企業の経営不安、 倒産等	 為替差損の発生 ・円に対して米ドル安	 コスト (金利差相当分の費用) の発生 米ドルの短期金利 < 日本円の短期金利

※上記はイメージであり、実際の投資成果を示唆、保証するものではありません。

## ダイワJPX日経400ファンド(米ドル投資型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

### ファンドの目的・特色

#### ファンドの目的

- 東京証券取引所上場株式に投資し、JPX 日経インデックス 400 の値動きを概ね捉えるとともに、米ドルへの投資効果を楽しむことにより、信託財産の成長をめざします。

#### ファンドの特色

1. JPX 日経インデックス 400 の構成銘柄に投資を行いません。
    - JPX 日経インデックス 400 とは
      - ◆日本取引所グループ(JPX)、東京証券取引所および日本経済新聞社が算出します。(起算日は平成25年8月30日、基準値は10,000です。)
      - ◆東京証券取引所の市場第一部、市場第二部、マザーズ、JASDAQを主たる市場とする普通株式等の中から、時価総額、売買代金、ROE等をもとに、算出者が選定した銘柄を算出対象とします。
      - ◆構成銘柄数は、原則として400銘柄\*です。また、年に1回定期入替を行いません。  
※定期入替後の上場廃止等によって、構成銘柄数が一時的に下回ることがあります。
      - ◆時価総額加重方式で算出され、定期入替時において1銘柄当たりの構成比率には1.5%の上限が設けられています。
  2. 円売り/米ドル買いの為替取引を行なうことで、米ドルへの投資効果を楽しむことをめざします。
  3. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行いません。
    - ・マザーファンドは、「ダイワ JPX 日経 400 マザーファンド」です。
- ※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

- ①「JPX日経インデックス400」は、株式会社日本取引所グループおよび株式会社東京証券取引所(以下総称して「JPXグループ」といいます。)ならびに株式会社日本経済新聞社(以下「日経」といいます。)によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、「JPXグループ」および「日経」は、「JPX日経インデックス400」自体および「JPX日経インデックス400」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。
- ②「JPX日経インデックス400」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、すべて「JPXグループ」および「日経」に帰属しています。
- ③「ダイワJPX日経400ファンド(米ドル投資型)」は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、「JPXグループ」および「日経」は、その運用および「ダイワJPX日経400ファンド(米ドル投資型)」の取引に関して、一切の責任を負いません。
- ④「JPXグループ」および「日経」は、「JPX日経インデックス400」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。
- ⑤「JPXグループ」および「日経」は、「JPX日経インデックス400」の構成銘柄、計算方法、その他「JPX日経インデックス400」の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

## ダイワJPX日経400ファンド(米ドル投資型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

### 投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動(価格変動リスク・信用リスク)」、「為替変動リスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」  
※米ドルの為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

※米ドルの金利が日本円の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

### ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限>2.16%(税抜2.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率0.7074% (税抜0.655%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期間の最初の6か月終了日(休業日の場合翌営業日)および毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問い合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用:

**大和投資信託**

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

## ダイワJPX日経400ファンド（米ドル投資型） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
宇都宮証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第35号	○	○		
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○
第四証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○		○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			
日の出証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第31号	○			
松阪証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第19号	○		○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○		○

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。